

基盤技術で 勝ち抜く

— 102 —

自動車の操舵ちやうたに用いるステアリングシステム。ジョイントメーカーの協和工業は2010年10月から1年間、戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン事業)で、同システムに組み込まれる新たなシャフトを開発した。

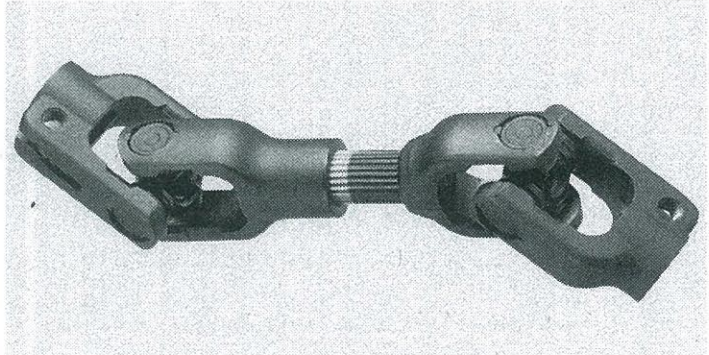
長年磨き上げた高度な冷間鍛造技術や独自開発の薄膜樹脂コーティング技術を駆使し、日産自動車や中国の比亞迪(BYD)の高級車に採用されるなど実績を残している。

「薄膜で精度良くコーティングするのがミソ。通常は既存製品にコーティングするが、それではダメだった」と説明する。このた

サポイン事業採択
防振・防音機能を
持つ低コストなス
テアリング用高伸
縮型スプライン伝
達機構の開発

大手自動車メーカーに採用されているフリースライドシャフト
生産に成功した技術力を持つ。フリースライドシャフトは、主力のステアリングジョイントとシャフトを組

固定されているシャフトを摺動させるため、そもそも構造上の性能は高い。同社は樹脂コーティングにより一段と防振・防音の機能を高め、摺動部分にボールベアリングを用いる従来製品に比べてコストも抑制した。衝突や衝撃からの安全性などの観点で求められる



望のタイミングが重なったため実用化を急ぐ目的で活用した。自動車部品は採用実績が重視されることが多い。フリースライドシャフトは日産やBYDの高級車に搭載された実績も足がかりに、さらなる拡販を目指している。「技術屋さんはいつも課題を抱えている」と言い切る鬼頭社長は、自動車メーカーの課題解決に協力するため自社技術の高度化や提案に余念がない。(名古屋・今村博之)

車操舵シャフト 防振・防音

伸縮性能も高くしている。同社は77年に、当時は難しいとされていた冷間鍛造によるジョイントの

つてジョイントの付加価値向上につながった。鬼頭社長は「こちらから提案することが大前提。基礎開発をどんどん

「進めなければならぬ」と問題意識を持つ。サポイン事業も、以前から研究していた樹脂コーティングの開発着手や顧客要

協和工業

製品名は「フリースラ

▽社長 鬼頭佑治氏▽所在地 愛知県大府市横根町坊主山1の31、0562・47・1241▽資本金 1200万円▽売上高 35億円(13年12月期)▽従業員 約150人▽設立 53年(昭28)4月 (金曜日に掲載)

列島ネットワーク